

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

平成 20 年度「研究グループ」の助成金募集について	100
平成 20 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について	100
土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備（水田）」（追補）と 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」（追補）発行のお知らせ	101
「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼	101
「農業農村工学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼	102
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	103
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	103
「農業農村工学会学術基金」の募金について	104
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について	104
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお祝いと 編集事務局（投稿先）のお知らせ	104
農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！	105
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知（農業農村工学会誌）」 平成 21 年春期の表紙写真の募集	106
第 52 回粘土科学討論会の開催について	107
農業農村工学会論文集第 254 号内容紹介	109
学会記事	112

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

Ⓔのマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 20 年 8 月 26～28 日	大会運営委員会	平成 20 年度農業農村工学会大会講演会		秋田市	75 巻 12 号 76 巻 1, 3 号
平成 20 年 9 月 24 日 ～ 26 日のうち一日	資源循環研究部会	平成 20 年度資源循環研究部会研究発表会	農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環に係る調査・研究の最新成果	東京都	76 巻 3 号

### 第 76 巻 5 号予定

展望：地球環境と農業農村の水：渡邊紹裕

小特集：アジア・太平洋水サミットから洞爺湖サミットに向けての農業用水分野の取り組み

アジア・太平洋水サミットから洞爺湖サミットへ向けて：青山健治他

アジアにおける環境流量：ラザルス・ケイト

環境流量：概念から適用へ：バラティ・ルナ他

メコン流域の水文環境と水田の役割：増本隆夫

水田流域における「環境のための水」に係る政策課題：田中秀明他

### 技術リポート

北海道支部：バイオガスプラントによる乳牛ふん尿の地域循環：杉山洋一

東北支部：暗渠もみ殻疎水材の開削充填機および作業方法の考案：岩佐郁夫他

関東支部：圃場整備における法面植生回復工法：菊池克幸他

京都支部：芦ノ町池堆積土の固化処理工法：岡村裕司他

中国四国支部：ため池整備における洪水吐・放水路の改修工法：吉本正輝

九州支部：赤土等流出防止対策の効果観測：伊良波直人他

小講座：環境流量：桃澤 靖

私のビジョン：最適化問題に取り組んで思うこと：前田滋哉

## 平成20年度「研究グループ」の助成金募集について

### 研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度3件以内です。

本年度の申請締切は、平成20年6月30日(月)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会HP参照)で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
  - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
  - (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。
 

注1 研究経過報告書の執筆にあたり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

## 平成20年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

### 研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は60万円程度(平成20年度、原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成20年9月19日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
  - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
  - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は

戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

E-mail : tkiku@jsidre.or.jp

**「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式**

締切：平成 20 年 9 月 19 日

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

**必要記載事項：**

- (1) WG 名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500 字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

**土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備(水田)」「(追補)と  
土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」(追補)発行のお知らせ**

この度、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備(水田)」「(追補)と土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」(追補)が発行されることになりましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

**書籍名・価格・規格**

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「ほ場整備(水田)」「(追補)

規格...A4判 60 ページ

価格...970 円(消費税込,送料学会負担)

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」(追補)

規格...A4判 36 ページ

価格...730 円(消費税込,送料学会負担)

**申込方法**

- ・役所等で、公用として購入される場合(代金後払)  
FAX かメールでお申し込み下さい。様式は問いません。  
ご希望冊数 送付先住所 請求書の宛名をご記入下さい。
- ・個人、会社で購入される場合(代金先払)  
現金書留：書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封下さい。  
郵便振替(00160 8 47993)：振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入下さい。

**申込先**

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4  
(社)農業農村工学会事務局 河合あて  
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494  
E-mail:maki@jsidre.or.jp

**「水土の知(農業農村工学会誌)」読者の氏名公表とご協力のお礼**

**農業農村工学会誌編集委員会**

農業農村工学会誌は、昭和 4 年の学会創立とともに、農業土木研究として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業農村工学会誌編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成 11 年度から氏名を公表(五十音順・敬称略)させていただきますことといたしました。

ここに、平成 19 年 4 月から平成 20 年 3 月までの期間に、閲読いただきました方の氏名を公表させていただきます。

この一年間に学会誌の内容充実にご協力、貢献いただきまして、まことにありがとうございました。ここに、お名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

粟生田 忠雄	岩間 憲治	小谷 廣通	佐藤 政良	竹下 伸一
有田 博之	大槻 恭一	片山 秀策	凌 祥之	田中 勉
井川 範彦	大野 研	金光 譲二	島 尚士	豊田 裕道
石井 敦	大深 正徳	河田 大輔	白谷 栄作	中里 靖
石田 憲治	大森 茂樹	河地 利彦	杉田 秀雄	中田 摂子
一恩 英二	緒方 英彦	川中 正光	大黒 理	中村 公人
稲垣 融一	岡本 正広	黒田 清一郎	田頭 秀和	中矢 哲郎
稲葉 一成	小川 茂男	小梁川 雅	高須賀 俊之	八丁 信正
井上 京	荻津 輝夫	近藤 直樹	武居 英樹	治多 伸介
猪迫 耕二	桶谷 恒	笹田 勝寛	竹内 康	樋口 清司

姫野 靖彦	松井 宏之	藪田 徳章	山村 研吾	吉永 育生
広田 純一	森 丈久	山内 勝彦	吉武 美孝	渡邊 紹裕
牧 恒雄	森 充広	山路 永司	吉田 貢士	渡邊 昌夫
牧 東史臣	藪田 和也	山田 育夫	吉田 修一郎	渡部 邦夫

## 「農業農村工学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼

### 農業農村工学会論文集編集委員会

農業農村工学会論文集は、昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊1号」から教えて、平成20年4月には、通算254号を数えることとなりました。投稿される論文数も年々増加し、その分野も徐々に広がりつつあります。このような環境の中で、読者各位のご支援・ご協力によって、つつがなく253号までの刊行が可能でありましたことを、深く感謝申し上げます。

農業農村工学会論文集編集委員会では、感謝の意を表したく、平成11年度から読者を公表（五十音順・敬称略）させ

ていただくことといたしました。

ここに、平成19年4月から平成20年3月までの期間に投稿原稿を閲読いただきました読者の氏名を公表させていただきます。

この一年間、論文集に掲載されるにふさわしい内容の維持にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。ここにお名前を記し、貢献への証しとさせていただきます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

合崎 英男	沖 一雄	小林 幹佳	宗村 広昭	中野 恵子
有田 博之	長 利洋	小林 晃	陀安 一郎	中野 芳輔
安中 誠司	垣原 登志子	小林 範之	高木 東	中村 公人
飯田 俊彰	角道 弘文	小松 登志子	高瀬 恵次	中村 真也
石井 敦	加藤 亮	駒村 正治	高津 文人	中村 真人
石井 将幸	加藤 徹	小梁川 雅	高松 利恵子	中村 好男
石黒 覚	加藤 誠	近藤 高貴	瀧本 裕士	長束 勇
石黒 宗秀	金木 亮一	近藤 正	竹内 潤一郎	浪平 篤
石渡 輝夫	亀山 孝司	斎藤 広隆	竹内 真一	西村 伸一
泉 完	軽部 重太郎	酒井 一人	竹下 伸一	西山 壯一
泉本 和義	川島 茂人	酒井 俊典	武田 育郎	西山 竜朗
伊藤 健吾	河端 俊典	颯田 尚哉	竹村 武士	野中 資博
稲垣 仁根	川本 治	佐藤 周之	武本 行正	登尾 浩助
井上 一哉	川本 健	塩野 隆弘	武山 絵美	端 憲二
井上 京	北村 義信	篠 和夫	多田 明夫	服部 九二雄
井上 光弘	木ノ瀬 紘一	凌 祥之	田中 勉	浜口 俊雄
猪迫 耕二	木全 卓	嶋 栄吉	田中丸 治哉	林 直樹
岩田 幸良	清澤 秀樹	嶋田 浩	田中 良和	早瀬 吉雄
上田 眞吾	工藤 明	島田 正志	谷川 寅彦	原科 幸爾
上田 達巳	工藤 庸介	清水 克之	田村 孝浩	原口 智和
上野 裕士	國光 洋二	志村 もと子	筑紫 二郎	原田 昌佳
内田 一徳	久保 成隆	白谷 栄作	長 裕幸	治多 伸介
宇波 耕一	黒田 清一郎	神宮 宇寛	月岡 存	東 孝寛
鶴木 啓二	黒田 久雄	勝呂 尚之	取出 伸夫	人見 忠良
大澤 和敏	小池 聡	鈴木 研二	永井 明博	平松 研
大坪 政美	小出水 規行	鈴木 正貴	仲江川 敏之	広瀬 慎一
大野 研	向後 雄二	瀬口 昌洋	中桐 貴生	広田 純一
岡澤 宏	河野 英一	瀬戸内 秀規	長坂 貞郎	布川 雅典
緒方 英彦	古賀 潔	千賀 裕太郎	長澤 徹明	福村 一成
小川 茂男	後藤 章	千家 正照	中園 健文	藤崎 浩幸

藤 咲 雅 明	増 川 晋	三 橋 伸 夫	初 井 和 朗	八 木 洋 憲
藤 卷 晴 行	増 本 隆 夫	嶺 田 拓 也	森 淳	山 岡 賢
藤 原 拓	松 井 宏 之	三 輪 弑	森 洋	山 崎 祐 治
藤 原 正 幸	松 尾 芳 雄	三 原 真 智 人	森 牧 人	吉 田 修 一 郎
細 川 吉 晴	松 田 従 三	三 宅 康 成	森 充 広	吉 永 安 俊
堀 俊 和	松 野 裕	宗 岡 寿 美	森 井 俊 広	吉 野 邦 彦
堀 野 治 彦	松 本 伸 介	毛 利 栄 征	森 健	若 杉 晃 介
前 川 勝 朗	三 沢 眞 一	望 月 和 博	守 田 秀 則	渡 辺 勝 敏
牧 山 正 男	水 谷 正 一	望 月 秀 俊	守 山 拓 弥	渡 辺 晋 生
万 木 正 弘	溝 口 勝	元 杉 昭 男	守 山 弘	Md. ザカリアホsein

**学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!**

**行事企画委員会**

**技術者継続教育機構通信教育部会**

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD、また、通信教育で最大年間 18 CPD 取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

**1. 参加会員の募集**

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

**2. 申込期限**

参加は、いつからでも可能です。

**3. 事務局**

機構の運営委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。( ☎03 5777 2098 )

**4. 内 容**

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

**5. 参加費**

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

**農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い**

**災害対応特別委員会**

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生

じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則 2~3 日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算す

る(年度予算限度額 300 万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494、

E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

### 「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成19年度までに46件の実績をあげています。

**個人会員一口** 5,000円(何口でも可)

**法人会員一口** 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行新橋支店

普通預金:No.1569058 口座名(社)農業農村工学会学術基金

郵便振替:00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

### 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008年3月にVol.6, No.1が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が入会されることを望みます。掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気

象環境)

⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されると、会員には国際ジャーナルが、年4回無料で配布されます。

出版社:Springer-Verlag社(ドイツ)

発刊スケジュール:2003年3月創刊,以後3カ月ごと

国際学会会費:正会員12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む)8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先:農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ:<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたはFAXでお申し込みいただけます。

### 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお祝いと 編集事務局(投稿先)のお知らせ

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering)は、機関誌として国際

ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2008年3月にVol.6, No.1が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review、Article、Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**投稿先** : PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205  
635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.  
Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821  
Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針** : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政

策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

**編集体制** (2006.1.1~2008.12.31)

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)  
Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

**出版社** : Springer Verlag 社 (ドイツ)

**投稿資格** : 筆者全員が国際学会員であること。

**投稿要領等** : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

**農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！**

**学会誌編集委員会**

**自主投稿原稿の募集**

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

**学会誌 76 巻の小特集のテーマ**

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 ( A4 判 1,500 字以内 )	原 稿 締 切 ( 刷り上り 4 ページ厳守 )
76 巻 5 号 第 1 回アジア・太平洋水サミット関連	公募なし	
6 号 大会関連	公募なし	
7 号 耕作放棄地の解消と再発防止 ( 仮 )	公募終了	
8 号 農業農村整備事業における環境配慮の取り組み事例 ( 仮 )	公募終了	
9 号 電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用 ( 仮 )	公募終了	平成 20 年 5 月 15 日
10 号 北海道における水田の再編整備と農業生産の組織化 ( 仮 )	公募なし	
11 号 地球温暖化防止と農業農村工学技術 ( 仮 )	平成 20 年 4 月 25 日	平成 20 年 6 月 13 日
12 号 限界集落の現状と課題 ( 仮 )	平成 20 年 5 月 23 日	平成 20 年 7 月 15 日
77 巻 1 号 農業農村整備技術の継承と技術者育成 ( 仮 )	平成 20 年 6 月 25 日	平成 20 年 8 月 15 日
2 号 農業農村整備事業の効果・効用 ( 仮 )	平成 20 年 7 月 25 日	平成 20 年 9 月 12 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : henshu@jsidre.or.jp

## 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするのと同時に、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、**刷上り1ページ**(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

**私の薦める本**は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷上り1ページ以内(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

## 76巻11号テーマ「地球温暖化防止と農業農村工学技術」(仮)

2007年、ゴア前米国副大統領とともにノーベル平和賞を受賞した「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の報告書によれば、気候システムに温暖化が起こっており、その原因は、人為起源の温室効果ガスの増加であるとほぼ断定されています。地球温暖化は加速的に進行しており、農林水産業にも深刻な影響を及ぼすと予測されています。

このような地球温暖化問題に対処するため、京都議定書において2008年から2012年までの第1約束期間に各国が取り組むべき温室効果ガス排出削減目標が定められ、わが国は、6%の削減が義務付けられました。また、農林水産省では、2007年7月、地球環境保全に積極的に貢献する農林水産業の実現に向けた推進方向を示した「農林水産省地球温暖化対策総合戦

略」や「バイオマス・ニッポン総合戦略」など、地球温暖化防止に向けた取組みが進められているところです。さらに、生物多様性の保全を推進するため「農林水産省生物多様性戦略」が策定されましたが、この中でも地球の温暖化は生物の多様性に与える重要な影響因子として認識されています。

農業農村整備事業においても、地域の生態系に配慮した取組みが展開されておりますが、本小特集では、二酸化炭素削減など地球温暖化防止策に焦点を当て、農業農村工学においてどのような地球温暖化防止に資する取組みが可能か、その具体的な事例や技術動向、バイオマスの活用事例、生物多様性の保全などに関する報文を幅広く募集いたします。

### 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

#### 「水土の知(農業農村工学会誌)」平成21年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

#### 趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農

村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

#### 記

#### 1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」  
(昨年と同様)



2. 対象巻号

学会誌第 77 巻 (平成 21 年 1~12 月号)のうち,特に春季のもの

3. 写真の種類

単写真,組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は,その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが,未発表のものに限ります。

5. 締切 平成 20 年 6 月 30 日 (春季の写真)

6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから,募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意下さい。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか,表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には,水利構造物の形状や機能が,その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない),デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない,ことが採用の条件となります。

第 52 回粘土科学討論会開催について

主催:日本粘土学会

共催:農業農村工学会他 16 学協会(予定)

会期:2008 年 9 月 3 日(水)~5 日(金)

会場:沖縄ポートホテル

〒900 0036 沖縄県那覇市西 1 6 1

☎098 868 1118 (代表) FAX 098 868 2189

講演:

A. 一般講演(口頭発表,ポスター発表,提案型セッション)

B. 会長講演 坂本尚史(千葉科学大学)

C. シンポジウム「エネルギーと粘土」

一般講演の申込:

申込方法:

日本粘土学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/cssj2/index.html>)からお申し込み下さい。講演ごとに 1 通の参加申し込みフォームをお送り下さい。講演概要はプログラム編成に使用いたしますが,合わせて日本粘土学会ホームページに討論会プログラムとともに公表しますこと,ご了承下さい。なお,発表者の内 1 名は日本粘土学会会員であることが必要です。Web ページが使えない場合は,下記問合せ先(1)あてお問い合わせ下さい。

申込開始:2008 年 5 月 13 日(火)12:00~

申込締切:2008 年 6 月 10 日(火)必着です。Web ページからの申込の場合は確認のための返信をいたしますので,返信がない場合は再度ご連絡をお願いいたします。

参加登録料:会員(共催学会員を含む)3,000 円,学生会員 1,000 円,非会員 5,000 円

講演要旨集代:3,000 円

講演要旨締切:2008 年 7 月 25 日(金)必着

懇親会:9 月 3 日(水)18:30~ 沖縄ポートホテル

会費:一般 6,000 円,学生 3,000 円

官製はがきに参加者氏名・所属を記入して,下記問合せ先(2)にお送り下さい。

見学会:9 月 5 日(金)工業技術センター,やちむんの里 読谷,美ら海水族館,万座毛(ノジュール)(予定)

会費:未定

官製はがきに参加者氏名・所属を記入して,下記問合せ先(2)にお送り下さい。

問合せ先(1)(講演・講演要旨送付先):

〒903 0213 沖縄県中頭郡西原町千原 1 番地

琉球大学農学部生産環境学科農地環境管理学講座内

第 52 回粘土科学討論会実行委員会 金城和俊(渡嘉敷義浩 気付)

☎098 895 8778 FAX 098 895 8734

E-mail: wa 614@yahoo.co.jp

問合せ先(2)(懇親会・見学会申込先):

〒903 0213 沖縄県中頭郡西原町千原 1 番地

琉球大学農学部生産環境学科農地環境管理学講座内

第 52 回粘土科学討論会実行委員会 渡嘉敷義浩

☎098 895 8778 FAX 098 895 8734

E-mail: toka 2841@agru-ryukyuu.ac.jp

〒901 0155 沖縄県那覇市金城 4 1 3

サザンツーリスト株式会社 担当者・友寄兼造,玉寄 哲也

☎098 891 8000 (代表) FAX 098 891 8005

E-mail: tomoyose@salada.co.jp